

「明治日本の産業革命遺産 石炭産業」に思う

国立精神・神経医療研究センター病院

牛島 品子

2015年、UNESCOの世界遺産リストに「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が登録された。その中の一つ福岡県大牟田市の「石炭産業 三池炭鉱 宮原坑」は私の実家から歩いて5分のところにあり、中学時代はその横を通学していた。同じく「万田坑」は明治35年～昭和26年に活躍した三池炭鉱の主力坑であり、当時我が国最大規模の坑口施設である。

また、同時登録の「三池炭鉱の専用鉄道敷跡」は明治24年に開通した石炭や炭坑資材、鉱員などを運ぶ鉄道である。最盛期には150kmにもおよび、現在もJRに繋がる1.5kmが企業使用されている。ここには幼い日の思い出がある。鉄道レールに並行して小さな用水路があり、幼稚園から小学生の近所の子とカエルやザリガニを捕るために鉄道敷地内に入るのだが、電車の運転手に見つかったら怒鳴られるため、電車が来ているかどうかをレールに耳をあてて聞く。近づいてきたらゴッーと大きな音が伝わってくる。その時はいったん線路から離れて、通過するのを待った。

見慣れた建物、幼いころ遊んだ場所が世界遺産?!と驚きもあるが、炭鉱町でしかも実家の商売が燃料店という育ちの私は嬉しくも誇らしくもある。しかしながら、石炭の文化は明治の産業革命で画期的な発展を日本にもたらした反面、落盤事故、一酸化炭素中毒による障害など負の遺産も抱えていることを忘れてはならないだろう。

ともあれ、世界遺産の決定から半年、以前は訪れる人がいなかった「宮原坑」に見学者が訪れている。鉄道敷も閉鉱後は草茫茫だったところが整備され、レールも数メートルであるが敷かれ、炭鉱歴史の説明表示も出されている。

マチュピチュもナスカの地上絵も素晴らしいが、自国の世界遺産を訪れ、日本の産業革命の堂々たる

息づかいを感じてはいかがだろうか。

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産

【1850～1910年に造られた8県11市23資産】

- | | | |
|-------|-----|--|
| ◇エリア1 | 萩 | 萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺産、萩城下町、松下村塾 |
| ◇エリア2 | 鹿児島 | 旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝 |
| ◇エリア3 | 葦山 | 葦山反射炉 |
| ◇エリア4 | 釜石 | 橋野鉄鉱山・高炉跡 |
| ◇エリア5 | 佐賀 | 三重津海軍所跡 |
| ◇エリア6 | 長崎 | 小菅修船場跡、三菱長崎造船所第三船渠、三菱長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン、三菱長崎造船所旧木型場、三菱長崎造船所占勝閣、高島炭坑、端島炭坑、旧グラバー住宅 |
| ◇エリア7 | 三池 | 三池炭鉱・三池坑（宮原坑、万田坑、専用鉄道敷跡、三池港） |
| ◇エリア8 | 八幡 | 官営八幡製鉄所、遠賀川水源ポンプ室 |

【引用・参考】

大牟田市 世界遺産登録・文化財室「三池炭鉱関連資産」パンフレット

おおむた～世界遺産のあるまち～観光ガイドブック

大牟田市 石炭産業科学館 三池炭鉱関連の近代化産業遺産ガイドマップ